平城京の宅地と道路と井戸の祭祀

（仮称）大森遺跡、平城京跡（左京五条四坊） 大森町・大森西町

JR 奈良駅の南側約 500m では、平成 13 年度から、JR 奈良駅南特定土地区画整理事業に係る発掘調査を実施しています。平成 21 年度は、平城京の条坊復元で、左京五条四坊の十六坪を中心に九・十・十五坪と一坪の発掘調査を実施しました。この調査では、奈良時代の遺構のほかに、縄文時代、弥生時代、古墳時代の遺構も確認しました。

縄文時代 蛇行した河川跡がみつかりました。

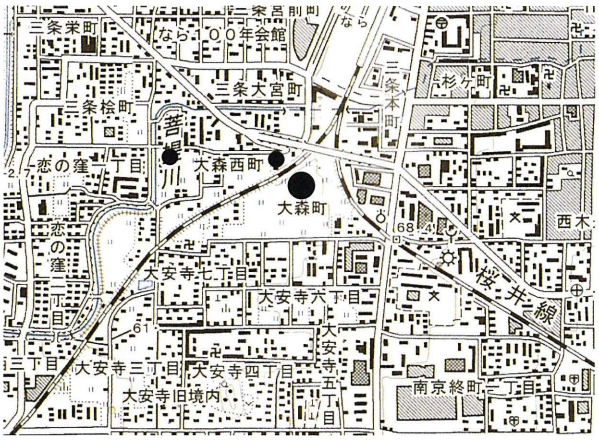
弥生時代 土坑（穴）、溝、河川跡がみつかりました。

古墳時代 弥生時代から続く河川跡がみつかりました。布留式と呼ばれる土師器が出土しました。

奈良・平安時代 一・九・十六坪では、掘立柱建物や塀の跡、宅地内を区画する溝、井戸、土坑等がみつかりました。

道路の遺構では、十六坪の北で四条大路を、東で東四坊大路を、南西で五条条間北小路と東四坊坊間東小路の交差点を確認しました。五条条間北小路の路面には、土師器の甕を合せ口にした埋納遺構と土師器の甕の上に甕をのせた埋納遺構がみつかっており、道路の上で地鎮が行われたようです。

九坪では、井戸や小穴から出土した土器にガラス小玉が納められていました。十五坪の北端では、須恵器杯を 2 段重ねにした埋納遺構がみつかりました。宅地・建物の地鎮や井戸鎮めが行われたようです。



調査位置図 （1/25,000）

五条条間北小路と東四坊坊間東小路の交差点
＊人の立っている位置が道路の位置（南西から）

十六坪の井戸（南から）

須恵器 2 段重ねの埋納遺構（北から）

ガラス小玉を納めた奈良三彩小壺

九坪の南東隅で見つかった奈良時代の井戸から、奈良三彩の蓋のある小壺が完存の状態で出土しました。井戸を埋める際に置いたようで、蓋ははずれていました。小壺の内容物を調べるために、X線撮影を行ったところ、ガラス小玉を5点確認しました。井戸からは、このほかに斎串（木製の祭祀の道具）、横櫛、桃種などが出土しました。

奈良三彩は、白色の素地に緑・褐（黄）・白の三色の釉薬をかけた国産の陶器のことです。平城京内では、主に貴族の邸宅や寺院などから出土しています。

奈良三彩の小壺と蓋は、平城京内で、これまでに約40例ほどが確認されていますが、井戸から出土した蓋のある例は、ほかにみあたりません。

視野を広げてみると、奈良三彩の小壺は、都を離れた地方でも多く出土します。福岡県宗像市沖ノ島遺跡や岡山県笠岡市大飛島遺跡は、当時の代表的な祭祀遺跡で、数多くの奈良三彩小壺が出土しています。このことから、奈良三彩小壺は祭祀具として使用されていたと考えられています。

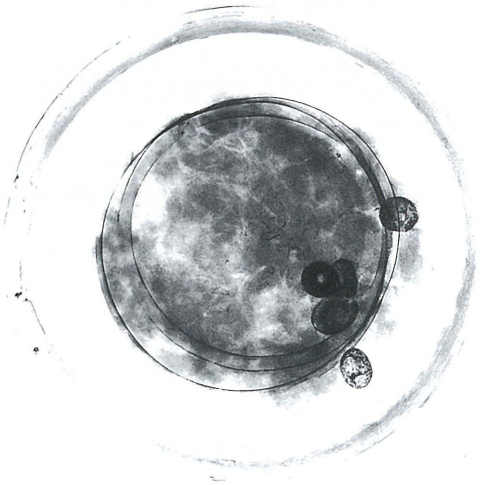
今回出土したガラス小玉を納めた奈良三彩小壺も、井戸を埋める際に、井戸を鎮める祭祀に使用したものと考えられます。

なお、同じ九坪から、小土坑（穴）内に置いた土師器の甕からもガラス小玉が13点以上出土しています。

奈良三彩小壺

奈良三彩小壺の出土状況

奈良三彩小壺　X線写真（横から）



奈良三彩小壺　X線写真（上から）

発行　奈良市教育委員会　平成22年3月15日